

retrace a pair

一対をなぞる

薬師川千晴

2018年3月2日|金—3月18日|日 月曜日休廊
11:00—19:00 / 金曜日20:00まで

Gallery P A R C
GRAND MARBLE



本展DM画像

《右手と左手のドロ잉 グリーンペール×紫》
2017, 紙, 顔料, 練りこみテンペラ, 272 x 394 mm

Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2018年3月2日(金)から18日(日)まで、薬師川千晴による個展「retrace a pair 一對をなぞる」展を開催いたします。

2011年に京都精華大学洋画コースを、2013年に同大学大学院芸術研究科博士前期課程芸術専攻を卒業した薬師川千晴(やくしがわ・ちはる/1989年・滋賀県生まれ)は、在学中よりグループ展などに出品を重ね、2014年の個展『絵画碑』(Gallery PARC)以降、個展『絵画に捧げる引力』(Gallery PARC, 2015)の開催、『ハイパートニックエイジ』(京都芸術センター、2015)への出品など、着実に活動を展開させています。

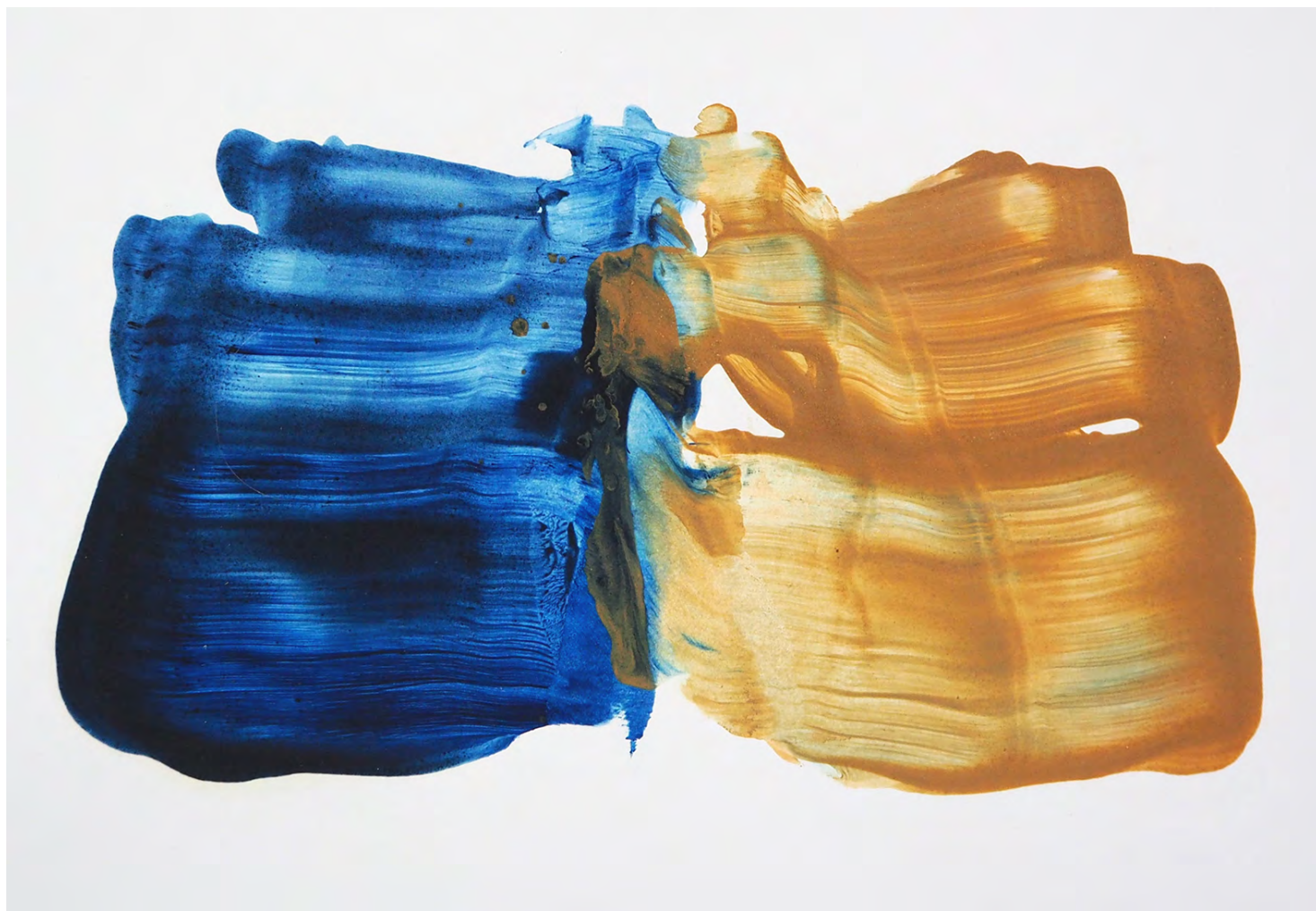
薬師川はこれまで、油絵具やテンペラ絵具を素材に用い、おもにデカルコマニー(*紙に絵具を乗せ、その上から別の紙を置いてひきはがすことで模様や像を生じさせる)技法を使用した、独特の絵画作品を発表してきました。この技法によって得られる左右対称の像を2枚の紙片に分かち、それらを大量に用いて画面上で構成する《絵画碑》作品や、絵の具を挟んだ紙を引きはがす際に見られる、絵具が引き合う力に着目した半立体の形状をもつ作品《絵具の引力》など、薬師川のこれまでの作品は、もともと1つであったものが2つに分かれた存在=「一對」の関係を主題に含んできたといえます。

今回初出品となる新作は、「一對」という存在に引き続き注目しながらも、「一對」を、“点と点”、“個と個”、“あちらとこちら”のような、異なる2つの存在の間に生じる“差異”や“距離”などの関係性とする思考のもとに、これまでとは異なる展開を見せています。

人が祈るときに両手を合わせる仕草から着想を得た新作《右手と左手のドロ잉》は、右手と左手につけた異なる2色の絵具を、同時に紙に塗り付け、紙上で混じり合わせる作品です。手の痕跡、絵具のストローク、完全には溶け合うことのない2色の絵具が重なり、異なる色へと変化している様子などを画面から見てとることができます。同じく新作となる《好一對の絵》は、最初の絵に対し、それと「ペア」の関係となるもう一枚が描かれた、2枚の絵による作品です。一つの画面に描いた色やストロークを見ながら、もう片方の画面を描き、さらにその影響をうけて最初の画面に加筆するといった工程を繰り返しており、2つの画面は互いに影響を及ぼしあっています。

多数の工程を経て制作される前作と異なり、シンプルな手法で即興性を重視して制作される新作からは、絵具の物質性や手の痕跡といった身体性などといった、これまでの薬師川の作品にあった要素が凝縮されるとともに、互いに異なる性質をもった、非対称で異質な2つの存在からつくられる、新たな「一對」の思考を感じることができます。

今回の展示では、多数の新作のほか、《絵画碑》《絵具の引力》の未発表作品も出品します。薬師川の近年の作品を一望するとともに、彼女の「一對」をめぐる多数のアプローチを通して、“天と地”、“自己と他者”、“有と無”といった「二極」があることで生じる世界のあり方や可能性についても、思考をめぐらせる機会となれば幸いです。



画像01

《右手と左手のドロ잉ング プルシャンブルー/イエローオーカー》
2017, 紙、顔料、練りこみテンペラ, 272 x 394 mm

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 **retrace a pair**
一对をなぞる

出展作家 **薬師川千晴** yakushigawa, chiharu

会 期 2018年3月2日[金] — 3月18日[日] 11:00~19:00 月曜日休廊 / 金曜日のみ20:00まで

料 金 無料

内 容 絵画

デカルコマニーの技法を取り入れて制作される《絵画碑》、分かたれた絵具の引き合う力に着目した《絵具の引力》などのこれまで展開してきたシリーズ作品に加え、“点と点”、“個と個”、“あちらとこちら”といった「一对」というあり方に注目し、そこに生じる“差異”や“距離”などの関係性を思考する新作《右手と左手のドロ잉ング》や《好一对の絵》を合わせて発表。異なる性質、非対称で異質な2つの存在からつくられる、新たな「一对」への思考を画面上に感じることができるのではないのでしょうか。

会 場 Gallery PARC [グランマーブル ギャラリー・パルク] 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F MAP

ア ク セ ス 地下鉄烏丸線「四条」駅・阪急京都線「烏丸」駅22・24番出口より徒歩7分。地下鉄烏丸線・地下鉄東西線「烏丸御池」駅より徒歩7分。
室町通・六角通 北東角 室町通側入り口より2Fへ

問い合わせ Gallery PARC (正木・武本・村田) 〒604-8165 京都府 京都市 中京区 烏帽子屋町 502 2F~4F

TEL= 075-231-0706 FAX= 075-231-0703 MAIL= info@galleryparc.com HP= www.galleryparc.com



画像02

《二対の絵画碑 #1》

2017, 紙、顔料、土、練りこみテンペラ, 580 x 720 mm

一對をなぞる

紙に一つの点を描いてみる。そしてその隣にもう一つの点を描く。
すると二つの点には色の濃さや大きさの“差異”が生まれ、
同時に2つの点の間にある空間は、お互いへの“距離”となる。

私はこの、点と点、個と個、あちらとこちらから成る“一對”の関係性に魅力を感じている。

天と地、自己と他者、有と無、二極があることで対の関係は成り立ち、
そしてそれは互いに必要とし合い、求め合うのだろう。

2018.2

薬師川千晴

薬師川 千晴

Chiharu Yakushigawa

1989年滋賀県生まれ

2011年、京都精華大学 芸術学部 造形学科 洋画コース卒業

2013年、京都精華大学 大学院芸術研究科博士前期課程 芸術専攻卒業

| 展覧会 |

個展

2017 「絵画へ捧げる引力」 Gallery PARC (京都)

2015 「絵画碑」 Gallery PARC (京都)

グループ展

2015 ハイパートニック・エイジ(京都芸術センター)

2014 Kyoto Current 2014(京都市美術館)

2013 科学のあとに詩をかくこと(ギャラリー16 / 京都)

2012 主張展(ギャラリーアーティストロング / 京都)

懐(常懐荘 旧竹内邸 / 愛知)

視域(京都精華大学 7-23ギャラリー / 京都)

2011 Leave Color -視覚と知覚-(ギャラリーフロール / 京都)

2010 京展(京都市美術館 / 京都)

| 受賞歴 |

2010 「京展」芝田記念賞

| 展覧会評 |

2015 『「引力」に捧げられた絵画』武本彩子(京都芸術センターアートコーディネーター)

2014 『碑文 - 絵画碑に寄せて』平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)



画像05

《絵画碑#13-絵具の濃度と引力》

2015, テンペラ、土、顔、木パネル, 226×458cm

2015年 『ハイパートニック・エイジ』(京都芸術センター)



画像06

《絵画と人間の条件#5》

2013, パネル、土、顔料、練り込みテンペラ、青錆、真鍮、羽, 235×480cm

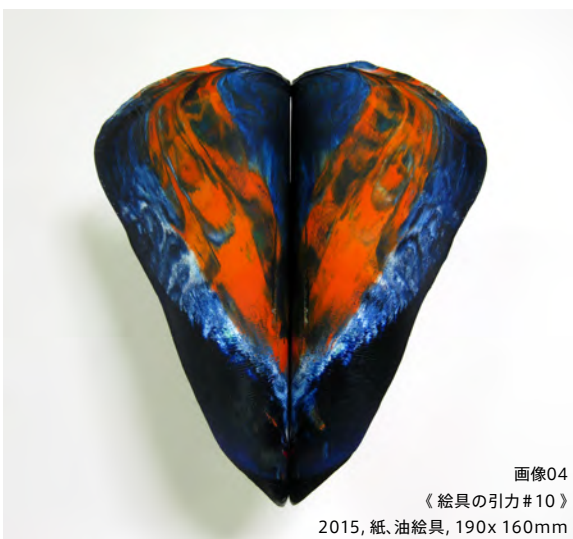
2014年 『絵画碑 - 薬師川千晴個展』(Gallery PARC)



画像03

《絵具の引力 #19 斜剥》

2016, 紙、油絵具, 150x 160mm



画像04

《絵具の引力 #10》

2015, 紙、油絵具, 190x 160mm



画像07

2017年 『絵画へ捧げる引力 - 薬師川千晴個展』(Gallery PARC)会場風景